

令和5年5月9日

市政記者クラブ 様

健康福祉局新型コロナウイルス
感染症対策部感染症対策室
担当：志水、竹田
電話：972-2633

結核集団感染事例の発生について

1 発生の概要

令和5年1月、市内在住40代男性（自営業）が肺結核と診断されたため、接触者健診を実施したところ、これまでに同居家族や仕事関係者から結核発病者3名、結核感染者7名が確認され、結核集団感染事例として厚生労働省へ報告したのでお知らせします。なお発病年月は令和3年12月と推定され、令和4年10月頃から咳の悪化、発熱、倦怠感、体重減少などの症状がありました。

2 今後の対応

- （1）発病者や感染者は順次治療を開始しています。
- （2）今回の検査で感染が確認されなかった方や、感染が確認されていても発病していないため現段階で治療を実施していない方に対し、継続して接触者健診を実施します。

3 新登録患者及び結核集団感染事例^{※1}の発生状況

年次	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
新登録患者数	422	378	336	285 ^{※2}
集団感染事例数	2	0	0	0

※1：初発患者が市内在住の場合を計上

※1：厚生労働省の定義で、同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいい、発病者1人を6人の感染者に相当するとして感染者数を計算する（初発患者はこの計算式に含まれない）。

※2：令和4年暫定値

4 報道にあたってのお願い

今回の情報提供は市民の皆さんへの結核に関する啓発を目的にしています。報道にあたっては、患者や発病者等の人権の尊重に十分なお配慮をお願いします。

参 考

1 結核とは？

結核菌に感染することによって起こる疾患で、感染症法上の2類感染症に位置づけられる病気の一つです。

典型的な発症例としては、感染後、半年から2年の間に、咳・痰・微熱などの症状が現れ、時には血痰、食欲低下、体重減少などがみられるようになります。

2 どのように感染するのか？

結核菌の混ざった痰が咳やくしゃみと一緒に空気中に飛散し、それを周りの人が直接吸い込むことによってうつります。

3 感染とは？

吸い込んだ結核菌が肺に定着した状態をいいます。

結核菌が体内にあっても、特に身体には悪い影響を与えていない状態で、他の人への感染性はありません。

感染した人が実際に発症するのは1割程度です。また、感染しても発病予防薬により、さらに発病を抑えることができます。

4 発病とは？

結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態をいいます。

発病の初期は、胸部エックス線検査で肺に影があらわれますが、咳や痰の中に結核菌が出ないため、他の人への感染性はありません。結核の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌されるようになり、排菌量が増えると他の人に感染させるようになります。

5 結核の治療は？

症状や身体状態によっても異なりますが、標準的な治療方法として、数種類（通常3～4種類）の抗結核薬を組み合わせ、6か月～1年間内服します。

6 接触者健診とは？

結核患者と、長時間にわたり同じ空間を共有するなど、結核に感染する可能性のあった人に対し、感染や発病の有無を確認するための健診を行います。

① 血液検査（IGRA 検査）

血液検査により、感染の有無を確認します。

この検査は、感染による反応が現れる時期（感染後2～3か月）に実施します。

② 胸部エックス線検査

結核の発病の有無を確認するため、おおむね2年間、定期的に行います。

「2週間以上せきが続く」、「かぜと思ったけどなかなか治らない」時は結核も疑い、呼吸器内科などの専門医療機関を受診しましょう。